資料１

第６回日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会について（報告）

１　日　時　　令和２年９月25日（金）　午前９時30分から正午まで

２　場　所　　日立市役所　５０３・５０４号会議室

３　出席者

(1)　委員　１８名　（欠席：冨田委員、内山委員、橋本委員）

４　内容

(1)　委員長挨拶

・前々回、前回と３グループに分かれて、グループワークをしてもらっているが、前々回「コミュニティの組織」について意見をもらい、前回「活動」について中心的に議論してもらった。今回グループワークとしては３回目、最後となる「市民意識の醸成」についてという議題で皆さんに議論してもらう。

・かなり大事な部分であり、どんなにいい組織を作ってどんなにいい活動をしても、市民の方々に参加していただけないと実質的なものにはならないというところであり、ここに集まっている委員の皆さんにとっても、一番頭の痛いところかなと思っているので、今日はこの市民意識について、忌憚のない意見を伺いたい。

・後程改めて説明するが、今の課題が何なのかという部分と、それをどう改善できるのかというあたりを中心的に議論いただきたい。

・今回グループワークが終わった後に、前々回、前回、今回、３回のグループワークを事務局にまとめてもらい、次回以降委員会で議論するうえでの重要な資料にしたいと思っているので、是非忌憚のない意見をお願いしたい。

(2)　第５回日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会の議事要旨(案)の確認について

第５回の議事要旨（案）について、原案のとおり承認され、日立市ホームページに公開することを確認した。

(3)　グループワーク「市民意識の醸成について」

ア　グループワークに入る前に事務局から資料２についての説明を行った。

イ　川﨑委員から、発行している広報紙について説明があった。

ウ　グループワーク

進行役について、Ａグループは石川副委員長、Ｂグループは西村委員、Ｃグループは砂金委員長が務めることとなった。

〇砂金委員長

・今日の議論の内容は市民意識の醸成についてであり、論点は先程の資料に挙がっているが、イメージとして、現状や課題は何かという話や、それをどう変えればいいのかという改善策の話という二つがある。

・コミュニティ側の課題・改善策と市民の側の課題・改善策、市民の方にどうす

ればコミュニティ活動に関心を持ってもらえるのか、どうやったらコミュニティ活動に参加しないと困るという意識になってもらえるのか、課題と改善策を縦軸にし、コミュニティと市民を横軸にするような形で議論いただきたい。もちろん、目安なので外れて自由に議論してもよい。

(4)　意見交換

グループワークにおける各グループの話し合いの内容について、進行役の３人から説明があった。

〇石川副委員長

・最初に、市民の意識として、コミュニティに対してどう市民が感じているかを聞いた。女性の参加者は比較的多いが、高齢の人、若い人、小中学生となるとなかなか参加数が少なく、色んな行事、レクリエーション等をやっても、ある団体とかある地域とか、参加する人が限定されてきてしまっているところがある。

・また、コミュニティについて関心を持ってもらうには、一般の住民の方からのコミュニティに対する意識と、市民の方をリードしていくためのスタッフに関心を持ってもらうという、２面的な方向からの意識作りが必要ではないかという意見があった。

・コミュニティが今実施している事業で必要とされるものについて、コミュニティプランなどでアンケートを取ると、８割から９割は、続けてほしいという意見であるが、いざ携わっていただくとなると、参加していただいたり、奉仕していただいたりする方は、非常に少なくなってしまうというのが現状である。とにかくコミュニティに参加していただかないことには話にならないので、スポーツであったり、お祭りであったり、清掃であったり、参加者を出来るだけ多くすることを考えて交流を図りたいという意見もあった。

・それから、今のコミュニティへの参加は高齢の方が多く、30 代から 40 代の方は、生活スタイルや時間的にも厳しくなっていて、参加者が少なくなっているが、こういう現状を打破するためには、コミュニティが、全世帯がコミュニティ会員であるという考えの、何らかのハード作りをしないといけない。これから検討することではあるが、入っていれば有意義とはいかないまでも、入らないと何らかの罰ではないが、損をするみたいな、そういうハード的な対策も必要ではないかと思う。

・イベントには参加するが協力しないという人が非常に多いが、福祉やコミュニティ活動については、小さいうち、小中学生のうちから、授業の中に取り入れた教育が必要ではないか。また、いろいろな活動を実施してもらうためには、何かやれば効果がある、簡単に言うとポイント制みたいな活動、そういうものが必要ではないかという、今の市民の方の意識・感覚的な面から意見をもらった。

・一方、行政に対してどういうことが望まれるかについては、交流センターの機能

や、協力員の業務内容など、そういったものを見直して、市民がより利用しやすい方法、例えば、交流センターで市の手続きが色々出来るなど、交流センターの協力員の仕事範囲を、コミュニティを支援できるような業務範囲にするというような意見があった。

・それから、今高齢者が非常に多いが、いろいろな会場に行くための足の確保を、行政的に何らかの対応がとれないのかという意見があった。

・有償という面に関して、福祉部門の活動については、有償で実施した方がよいものについて見直した方がよい。市報の配布やゴミ排出の当番は、自治会ごとに実施しているが、自治会・町内会を抜ける大きな理由の一つにもなっているので、市報は有償の方法によって配布し、当番を誰かが周り番でやっていたようなものは、有償にしてなくすことによって、今、町内会・自治会を抜ける理由の一つは軽減されるのではないか。それから、自治会長など地域の取りまとめの方への補助という意味でも、有償化した方がよいのではないかという意見もあった。

・また、全員がコミュニティの当事者であるという意識づけのために、今後検討する必要があるが、防災の避難時の範囲や、避難指示を出す、避難指示が出た場合の周知、清掃などにおいても、ここの地域はここというようなリストを、行政側で全世帯について作って、各学区に渡しておき、当面、自分たちはコミュニティの会員だという意識づけをしながら、従来の自治会・町内会は継続していくことも必要という意見があった。

〇西村委員

・最初に、自治会・町内会の活動に参加してもらうための新しい機会の創出ということで話し始めた。コミュニティ活動に参加したいけれども、基本的に何がやられているのか分からない、知ろうとしていないのかもしれないが分からない。あるいは、支部制を取っているようなところも、支部長の考え方によって、伝達が上手くされないようなこともあり、伝達方法も考えなければいけない。回覧板で考えてみると、山側に造成されている団地は古いままではあるが、基本的には回っている。それ以外のところは、新しい方法で回覧板などを回し始めている。例えば、町内会・自治会ではないが、みんなでまとまって回覧板などを回している。５年先、10 年先にどうなるかと考えた時に、若い人たちは市報の配布はいらなくて、ネットで見ていたり、コンビニに取りに行ったりして、情報を得ている。市報が回ろうが回るまいが今はまだ大した問題ではないのかもしれないが、高齢になると取りに行くことすら出来ない、家から出ることも出来ないような状況が起きる。そのために、市報を届けたりするいい方法を、有償で行うことが必要なのではないか。

・若い人にコミュニティ活動に参加してもらう手法は何かあるだろうかということで、今地域を基盤にしている人というのは、子どもとシニア世代、子どもとなる

と中学生や高校生で、地域で何かやってみたいという人もいる。若い人の意識も、震災後、昔に比べて変わっている。その中高生も体験が必要であり、例えば、高校にボランティア部を設けているところもあるので、しっかりコーディネートをするというようなことで、中学生や高校生に地域の活動に参加をしてもらう、巻き込んでいく。

・シニアはどうするのかというと、きっかけづくりをしなければいけない。その人たちには、最後は必ず地域ですよと、どんなに外で活動してきたとしても、最後は地域ですよということを忘れないようにしていきたい。地域で行える多彩なプログラムを提案し、自分でやれるもの、おおざっぱではなく、小さな小さなものを積み重ねていくことが必要である。パソコンが出来ますと言っても、パソコンで何が出来るのか、これとこれを繋ぐと新しいものが開発されるというようなものでプログラムを開発して、地域で出来るプログラムを大いにＰＲして、よその学区でもやっているようなもので、こんなことで参加するきっかけになったというものを拾い出して、共有しながらたくさんのプログラムを提案していくというような手もある。

・それから、地域の小さな会社にも定年間近な方がいるので、そういうものをＰＲしながら、最後は地域ですからというようなことも、プログラムに入れていただくお願いをするということも有効ではないかという話が出た。

・もう一つは市報配布について、新しいやり方がよいということもあるが、市報配布員は今、とりあえず嫌々ながらも順番でやっていて、市報をポストに入れていくことがあるが、市報配布とともに、会話が出来る存在であるとよい。地域の人と会話が出来て、そこで、地域で発見する課題もあるかもしれないし、地域のニーズを探すことも出来る。あるいは、若い人がやりたいというようなことも、もしかしたら聞くことが出来るかもしれない。市報配布員が今嫌々やっていることを、もう少しこんなことを加えてやってもらえると嬉しいというような方法も必要なのかもしれない。地域の中で会話しながら、地域の問題があったらお知らせくださいみたいなことも必要なのではないか。

・それから、新しいコミュニティを作り出す仕組みが絶対に必要であり、昔の繋がりを切ろうとしないで、自治会・町内会については、頑張ってやってもらうとしても、民生委員や福祉委員に地域の一人暮らしの方のところに行っていただいているが、同じように自治会・町内会の活動をしていただいているところに、新しい仕組みで、民生委員や福祉委員さんに、有償でもう少し頑張ってやってもらう。

・もう一つは、市や社協やＮＰＯや学校との連携というのが、絶対に必要になっていて、連携することで、住民サービスが豊かになると思っている。そこには必ずコーディネーターが必要である。何でも無償でやってくれるという時代ではないので、有償ボランティアを用意し、トータル的に広報していく必要がある。全体

が見えるようにして、何をやっているのかということを誰もが分かるようにする必要がある。全体を見えるようにして、見える化をしていく。みんながそれを見ることが出来る、分かることが出来ることが重要である。

・もう一つは、市民総参加を目指す。ただただイベントに参加することだけではなく、隣近所にいる人たちの間の声掛け、あるいは、その人たちが出来ることを上手く作り出せないか。

・基本的には広報が下手だということであったが、それは縦割りが上手くいってるからだというような意見があり、和やかに、次の時代を見てこんなことがあったらいいなというような話ができたのではないかと思う。

〇砂金委員長

・かなりいろいろな議論になったが、私の方で４つにまとめさせてもらった。

・１つ目として、若い世代について、市民アンケートなどを見る限り、若い世代に意識がないわけではないという意見が出た。ではどうすればいいかというと、市民アンケートの結果では情報提供すれば参加したいという方々もいる。例えば、LINE やメールみたいなものをもっと活用して、必ずしも、現実に集まって会合するだけではなくて、もっと SNS などを活用することで、若い人たちも参加しやすくするべきではないか。高齢者の方々にも少し頑張って LINE などをやっていただくということも必要なのではないか。

・それから、どうしてもアパートやマンションで暮らしている方々は、自治会・町内会やコミュニティ活動になかなか関われないということがあるが、そういったところにも声掛けを積極的にしていくべきであろうという意見があった。きっかけづくりとして、例えば、趣味のサークルなどでも構わないので、何かはじめの一歩として興味のあるグループに入ってもらう。あるコミュニティでは、若い人たちが企画したイベントにコミュニティが協力をする。そうすることによって、若い人たちとコミュニティの間につながりが生まれて、逆にコミュニティが何らかのイベントをするときに、そういった若い人たちに手伝ってもらうというような、関係構築が出来始めている。そういった形ではじめの一歩として趣味のサークルに入ってもらって、コミュニティがサポートしてあげたりとか、あるいは、子育て世代、特に若いお母さんたちと小さいお子さんたちに対して、子育て教室みたいなものをコミュニティで提供して、それをきっかけに若いお母さんたちとコミュニティの絆が生まれて、そこから段々コミュニティに参加していただいたりという方法もあるのではないかという意見もあった。

・２つ目がフリーライダーや不公平感の問題について、どうしても今、活動している人としない人、あるいは、会費を払っている人と払わない人の不公平感があるというのも課題であろうということであったが、ここに関して、一つの考え方としては、自治会・町内会費とは別に、コミュニティの会費を取るということで、

逆に参加しなければ損、利用しなきゃ損というような意識を持ってもらって、参加してもらうという方法もあるのではないかというような意見もあった。

・３つ目として、負担感の部分である。なかなか、自治会・町内会の役員の方が、必ずしも自分自身、自分たちが暮らしている町内の実態を分かっていないので、把握する必要がある。一方で、そういったことが、役員の方たちの負担感になってしまって、担い手がいなくなってしまい、加入率の低下にもつながってしまう。これがなかなか二律背反というか、難しい問題である。もっと実態を把握すべきだが、負担感を増やすのも困る。このあたりはすごく難しい議論ではあるわけだが、やはりここで、原点に返るべきなのではないかという意見もあった。向こう三軒両隣の関係から始まって、そこでお互い顔見知りになって仲良くなることで暮らしやすくなる、それが、段々広まっていくということがまずは原点であるはずである。そういった日常的な繋がりみたいなものが災害などにも生きるので、そういった原点に返った自治会・町内会あるいはコミュニティの在り方ということも考えていく必要があるのではないか。

・最後に、いろいろな議論になってまとまりにくかったが、私の感想としては、どうもコミュニティの内側の方々と外側の方々で、意識差がある。あるいは、日立には 23 単会あるが、地域差も相当あるだろうということである。どうやらコミュニティの外から見ると、コミュニティがすごく一部の方々の閉鎖的なものに見えてしまったりする。逆にコミュニティの内側から見ると、外の方というか、参加しない方々が、なんでコミュニティのことをもっと知ってくれないんだ、知ろうとしないんだという不満があったりする。このあたりの意識の差とか、地域の差というものを、なかなか解消は難しいが、少なくとも意識の差、地域の差があるということを、恐らく双方が認識すべきなのではないか。

・例えば、交流センターについていろいろな議論が出た中で、最大公約数的にまとめると、やはり人が集まりやすいような雰囲気づくりや制度づくりが大事である。それは、コミュニティの内側の方々にも外側の方々にも共通するはずである。どうやったら人が集まるような仕組みづくり、雰囲気づくりが出来るのかということは、継続して検討していくべきではないかというような議論になった。

・各グループから報告を受けて、皆さんから何か意見はあるか。

〇委員

・市民意識をどう変えていくかというような議論で話し合うテーマだったと思うが、いろいろ話してみて、コミュニティの人たちの認識にも、それぞれの学区によってかなり違いもあり、考え方の違いというのは結構大きいと感じた。市民意識という一方で、コミュニティ推進会の役員をされている方たちの意識というのも、バラバラではいけないのではないかと思う。

〇委員長

・後程、事務局からもまた説明があると思うが、今月 30 日にコミュニティの会長会議にお邪魔するので、そのいろいろな地域の差についても伺ってみたいと思う。

〇副委員長

・先程委員から意見があったが、私はコミュニティ推進協議会の会長をやっているが、日立市のコミュニティ推進協議会で、主に２か月に１回実施している会議の中で取り扱う課題というのは、行政から清掃などのいろいろなルールの徹底ということで、行政的に全学区共通のものについて、どういう進め方でいくかということでやっている。それぞれの学区の運営の仕方などについては、それぞれの学区の特徴を活かすというようなことで、各学区のコミュニティの進め方などに関して、アンケートをとったり、お互いに見に行ったりということはやっていない状況にある。やり方はいろいろあるというのが、その単会の活動の一つの主義になっているので、そういうことはあると思う。

〇委員長

・23 の単会があるので、当然、それぞれの地域の特性や考え方の違いによって、活動の在り方は違っていいと思う。その違いを、ポジティブに捉えることが必要で、お互いでいい部分を真似しあったりとか、もしくは、自分たちのところの課題みたいなものの解決のヒントを他の単会からもらったりということも出来るかと思う。そういったお互いのいいところを取り合って、もしくは、課題を見つめ合ってみたいな関係はあっていいと思う。

・これは今日の議論よりももっと前の段階、前回の議論になるが、多分活動は様々あっていいと思うが、最低限ここだけは一緒の活動だというベースラインもあっていいと思う。そのベースラインは 23 の単会で共通化して、そこにプラスして、この地域ではこういったことをやる、この地域ではこういったこととこういったことをやるというように、ある程度地域ごとに差があるみたいな形の活動もあっていいかなと思う。

・今日でグループワークが終わり、次回からグループワークで話し合ったことをまとめつつ、この委員会中に全体的な考え方をまとめていきたいと思っている。今日もしくは今日に限らず今までの３回の話し合いを通じて感じたことでも、思いついたことでも構わないが、今日の議論を踏まえて、何か考えていくことがあれば伺いたい。

〇委員

・これまで３回に分けていろいろな事を議論してきたが、今までどおりの組織だったり、活動だったりをすることはダメかなと思う。今みたいにそれぞれ 23 の学区でいろいろな活動をしていて活動形態は違っていたとしても、何をやろうとしているのか、見える化しておく必要がある。その中で、行政がやる部分と、コミュニティが担当するもの、その中にはもちろん、民生委員がいたり、各団体があっ

たり、機関があったりするが、そこの人たちが事業をやろうとするときに、どこを私たちが今担っているのかが分かるようにしておかなければいけない。バラバラにやっていて、何かあって大変な時には、これをやるんでしょって言われるのではなく、やれるやれないは別にしても、新しいコミュニティを作り出すというような意味合いでは、新しい仕組みも編み出していくことが必要である。

・今現実にこんなことが分かったのだから、そこからアイデアを出して、例えば、一人暮らしの若い人だったらこんなやり方もあるというようなものを出し合っておいて、それを上手く取り込んで、新しい仕組みが仕上がっていくというようなことを積極的にやっていきたい。

・今までこうだったからそれでいいよねというようなことにはなりたくない。せっかくここまで議論してきて、これからも何回もあるので、ずっと先を見ながら、５年先、10 年先ではダメという話もあったが、５年くらいでも、地域の事情、状況というのは変わってくるし、今は特にコロナ禍なので、何も出来ないという状況の中で、どういうやり方で繋がりを作っていくのかという大きな仕事を今私たちはしているが、全てにおいて繋がりというものは無くせないと思う。

・住民総参加という難しいことかもしれないが、Ｃグループでも話があったように、向こう三軒両隣の関係をどう修復出来、新しいもので繋がりが上手く作れるのかどうか分からないが、研究課題としてそこをやっていくことで、市民総参加で、お金ももちろん払い、私たちもみんなでやれることを編み出していくというようなやり方をしていく時なのかなと思う。大きなことをやらなくても、役に立つというか、お手伝いが出来たり、元気？と言われて頑張れたりというような、ごく当たり前の地域が作れたらいいと思うので、次の回からも、積極的に前を向いていきたい。

〇委員長

・今の委員の話を聞きながら、私も今日の議論、今までの議論を振り返ってみながら考えてみたが、一つは行政とコミュニティの役割分担というものをはっきりさせておく必要があるのかなと思う。今までコミュニティがやっていたことでも、もしかすると行政がやるべきことがあるのかもしれないし、逆に今まで行政がやっていたことでコミュニティがやるべきこともあるのかなという気がしている。例えば、外灯については、一番フリーライダーを生みやすい部分である。自治会・町内会費とか、コミュニティの会費を払っていない人は外灯の下を通るなとは言えないので、そこはある程度行政が行った方がむしろ不公平感がなくなるということもあるのではないか。以前に、コミュニティのつどいで、雲南市の課長をお呼びしてお話を伺った中で、行政が水道のメーター検針の事業をコミュニティに委託して、お金を払う。コミュニティの方、検針員は水道のメーターを検針するついでに、その家の方たちの見守り活動も行う。そうすると、水道のメーター検

針を行政から委託することで、お金も入るし、見守りも出来るということであった。そういった形で今まで行政がやってきたことをコミュニティがやる部分もあるのかなと思う。

・今委員からコロナの話があったが、私はもしかしたら、コロナは見直すいいきっかけになるのかなと思っている。今、全国で様々なイベントなどが中止されている。例えば、お祭りなどは、担い手不足とか、なかなか担ぎ手がいないとか、参加者が減ったとか、ずっとここ 10 年、20 年で議論されてきているが、今回お祭りが中止になっている。一旦中止になったことで、これを機にやめることと、それでも残すべきことを整理整頓できるのではないか。もしかしたら、今コロナ禍で人と人同士が直接会えないため、なかなか絆というものが薄くなっている部分もあるかもしれないが、そういったコロナ禍だからこそ、それでも残すべきものは何なのか、もしくは、これをきっかけに発想を変えていこう、やめようかという部分も、ここで見直しができるのかなと思う。

・先程の意識の部分の話で、どうしても活動に積極的な方々は、活動しない方々にイライラしてしまうのはよく分かる。我々教員は、学生たちに勉強をさせたいが、勉強しなさいって言っても絶対学生たちはしない。どうやったら勉強するのかと、結構あの手この手で、学生たちが自分から勉強したくなるような環境づくりであったりとか意識づけであったりとか、本当にそれこそ飴と鞭ではあるが、先生方も苦労されていると思う。多分地域活動もそうで、市民の方々が関心を持ってくれないとか参加してくれないということについても、どうすれば参加してくれるのか、どうすれば参加したくなるようなコミュニティになるのかというのを、現在コミュニティに参加している方々の側も考えて、なんとか学生が勉強したくなるようにみたいな形で、市民の方々が思わず参加したくなるような、そういった雰囲気づくり、仕組みづくりというものを、これをきっかけに検討してもいいのかなと思う。そういったことも是非、次回以降も議論していきたい。

(5)　その他

ア　次回の日程等について

次回検討委員会は、１０月３０日（金）午前１０時から、日立市役所５０３・５０４号会議室で行うことが確認された。また、１１月の日程について１１月１３日（金）午後２時から、５０３・５０４号会議室での開催に変更することが説明された。

イ　各単会会長との意見交換について

９月３０日（水）午後１時３０分から行われる、会各単会会長との意見交換について、参加する委員は９月２８日（月）までに事務局に連絡をもらうよう、案内があった。

以　上